

深溝松平家

文化財調査でわかったこと

幸田町教育委員会では、ふこうすまつたいたけし深溝松平家墓所を中心とした本光寺域の国史跡指定に向けて、本光寺文化財調査指導委員会を組織し、深溝松平家の歴史と菩提寺であった瑞雲山本光寺の歴史・

文化財の総合的な文化財調査を行っています。今回は本年度行われた調査において、どのような成果が見えたのか報告します。



▲文化財調査の様子



▲1月24日の本光寺文化財調査指導委員会

▼古文書調査の様子



▲島原本光寺での古文書調査の様子

◆調査の報告

古文書部会

松平歴代当主の葬儀に關係する記録を探すために、本光寺文書や松平家の家臣として廟守を勤めていた横落家の文書、深溝陣屋の代官であった八田家の文書の調査を行いました。八田家の日記に9代当主忠刻の葬儀にあたり、石室のふたを深溝の小原山より運び、墓石は岡崎の石屋が納品しているという記事が見つかっています。歴代当主が亡くなった時に、深溝陣屋の指揮のもとで、どのようなことが行われていたのかが分かる情報といえます。

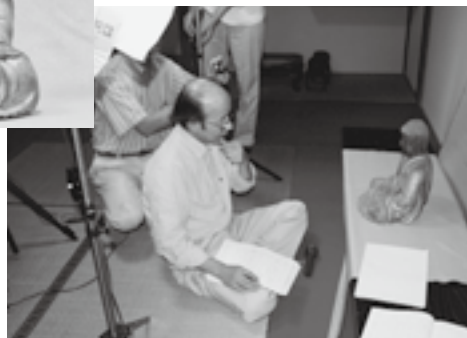
2月上旬には、松平家が藩主を勤めた島原市に行き、島原藩の歴史史料の調査を行いました。島原では島原本光寺に残された本光寺關係の貴重な文書史料の調査と撮影、島原市松平文庫では貴重な島原藩日記の調査と撮影を行い、藩主の葬儀に関する記事や、島原と深溝のやり取りなどについて調べてきました。これから古文書の解説になりますので、その内容は順次明らかになっていきます。

彫刻部会

本光寺に残されている仏像の調査を行いました。本尊の釈迦如来坐像が室町時代後期に造られたものということで本光寺の創建当時から仏像であることが分りました。また、本堂に安置されている十六羅漢像が、嘉永元（1848）年に造られた仏像であることが、像に書かれた銘文から明らかとなりました。寺に嘉永元年に十六羅漢を納めた古文書が残っており、記録と現存する資料が一致したことになります。



◀ 釈迦如来坐像



▶ 仏像調査の様子

漆工部会

本光寺に保管されていた松平家ゆかりの品と、松平忠雄墓所から出土した漆工品の調査を行いました。ゆかりの品の中では鍋島家（6代松平忠房の妻の実家）の家紋が付いた梨子地杏葉紋懸盤が非常に優れた時絵の品であることが分りました。これは6代松平忠房の妻の菩提を弔うために納められたものと考えられます。出土品の印籠は江戸時代前半の17世紀に造られたものであり、徳川將軍からいただいたものである可能性が高いということです。



▲ 梨子地杏葉紋懸盤



▲ 漆器調査の様子

絵画部会

本光寺に保管されていた絵画の調査を行いました。町の指定文化財となっている「京洛諸国名所絵図」などのほか、有名な絵画の流派である狩野派などによって描かれた絵もあります。作者に直接依頼して描いてもらったものや、譲り受けたもの、拝領したものなどにわかれるようです。今回の調査で見えられた、鎌倉時代後期に描かれた観音菩薩立像や室町時代後期の作である瀧見観音像は創建当時に松平家が寺に寄進した品である可能性も考えられます。



▲ 絵画調査の様子



▶ 瀧見観音像

陶磁器部会

本光寺に保管されていた松平家ゆかりの品と、松平忠雄墓所から出土した陶磁器の調査を行いました。陶磁器は九州の大名らしく伊万里焼を中心に、中国陶磁や京焼で構成されていました。そして不思議なことに茶道の道具として用いられることが多い瀬戸美濃陶磁器がほとんどないことも分りました。三河の寺院であるならば、通常瀬戸美濃陶磁器がある程度存在していてもよいはずですが、本光寺は一定期間で住職が異動する輪番制を採用していたので、その制度と関係があるのかもしれませんが。



▲中国陶磁の大皿

陶磁器調査の様子▼



金工部会

本光寺に保管されていた松平家ゆかりの品や、本光寺の金属製の道具の調査を行いました。金工品の中には銘文が刻まれているものも多く存在し、誰が何のために本光寺に納めたのか分かる資料もあります。特に香炉は当主の菩提を弔うために納めたものが多く、葬儀や法要の様子をうかがい知ることのできる資料といえます。横落家文書や幕末の記録には多くの仏具や金属製の香炉に関する記録が書かれています。残念ながら、それらの大半は戦時中の金属供出によって失われてしまったようです。



▲兜形香炉

金工調査の様子▼



考古部会

町郷土資料館で松平忠雄墓所発掘調査の整理作業を行っています。ここでは出土品の計測や観察などの考古学的調査を進めています。この調査により外面的な観察からだけでは分らない、文化財の構造的情報も記録できるため、美術工芸の分野においても重要な情報となる可能性があります。なお考古学調査を終えたものから順に、独立行政法人奈良文化財研究所に運び、保存科学面での調査を受けることになっています。



▲資料館での整理の様子



▲測量の様子

本光寺境内の測量調査

本年度は寺域全体の地形測量と本堂一帯の詳細な地形測量を行いました。精度の高い測量図は松平家墓所の調査を行っていく上で必要不可欠な資料であり、さらには国史跡指定の申請に当たり必ず必要な資料となります。測量は本年度と来年度の2カ年実施する予定であり、来年度は東西墓所と石塔などの測量を行います。

本光寺境内の試掘調査

寛政3（1791）年の寺領絵図を基に、昔の寺の様子を探るための発掘調査を行いました。発掘調査を実施する前に、電気やレーダーを用いた地中探査を実施しています。その結果、境内梅林内の一部に特異な場所が見つかり、試掘を行ったところ地面に段差が確認されました。この場所は旧本堂推定地であるため、段差は昔の本堂の基壇である可能性が高いと考えられます。



◀見つかった旧本堂の基壇

▼発掘調査の様子



最後に

本光寺文化財調査は平成25年の墓所を中心とした寺域の国史跡指定への申請を目指し、平成23年度に松平忠雄墓所発掘調査報告書遺構編、平成24年度に松平忠雄墓所発掘調査報告書遺物編、本光寺文化財調査報告書をそれぞれ刊行する計画で進めています。今後も、新たな発見があれば、このような形で報告をしていきます。

幸田町教育委員会では深溝松平家に関する情報を集めています。どんなわずかな情報でもかまいませんので、お寄せください。

問合せ 生涯学習課生涯学習G
(内線197)



▲東御廟所